

平成29年第2回北海道議会定例会 一般質問 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 平成29年6月27日
 質問者 民進党・道民連合 広田 まゆみ 議員
 答 弁 者 観光振興監

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>ニ グローバル人材育成の方向性などについて （四）グローバルアウトドアガイドの育成について （広田議員）</p> <p>道としても、グローバル人材育成の問題意識の1つとして、外国人観光客の急増を上げています。しかし、海外からの旅行者の72%が、東アジアからと地理的に偏っており、国籍の多様化は急務でもあります。道としてもあまりにもざっくりした括りではありますが、欧米市場を対象に27万人の来道という目標を掲げたと承知をしています。</p> <p>そこで、グローバル人材の具体的なイメージの1つとして、英語を話せ、北海道や地域の魅力について、しっかりしたガイドもできる、仮称ですが、グローバルアウトドアガイドの育成が急務であると考えます。</p> <p>ナショナル・ジオグラフィック・トラベラー誌の「2016年に訪れるべき旅行先20選」に北海道が選出され、世界の個人旅行者必携とも言われるロンリープラネット誌が選ぶ「ベストインアジア2016訪問先ランキング」で北海道が第1位になりました。もはや、競争相手は隣町や、同業他社ではなく、世界のリゾート地、観光地です。</p> <p>残念ながら、日本におけるいわゆるガイドという仕事についての評価は低く、北海道においても、アウトドアガイド制度はありますが、育成の仕組みはまだまだ草の根で不十分であると認識しています。</p> <p>教育旅行や、団体旅行に安全安心に対応するだけでなく、外国の個人旅行者に付加価値の高いサービスを提供するアウトドアガイドが必要です。</p> <p>知事は、新・北海道ビジョンの中で、高度な能力や資源を有する留学生などが、地域課題の解決に貢献し、出身国との「かけはし」となるよう「海外人財養成プログラム」の構築に向けて取り組むとされていますが、例えば、アウトドアガイドとしての専門性の高い実践者や、指導者をヨーロッパから招くなど、道として、グローバルアウトドアガイドの育成に早急に、かつ、中長期的に取り組む必要があると考えますが、見解を伺います。</p> <p>【指摘】 （広田議員）</p> <p>体験を重視するということであれば、体験の指導者を養成する仕組みも大変重要であります。</p> <p>アウトドアガイドなど、多面的な、様々な機能が想定され、そうした人材の育成についても、グローバル人材、イノベーション人材の育成と併せて、しっかりと取り組まれることを、また改めて質疑・ご提案させて頂きましても強くご指摘申し上げまして、私の質問を終わります。</p>	<p>（観光振興監）</p> <p>アウトドアガイドについてでございますが、近年、海外からの観光客の皆様の間では、本道ならではの自然環境を活かしたスキーやサイクリング、ラフティングといった体験型観光への注目度が高まっております。</p> <p>こうした中、道では、これまでもアウトドア事業者に対しまして、道内のインバウンド市場の状況や海外から見た北海道のアウトドアのニーズ、座学や実技による外国人対応などの研修を実施しております。</p> <p>地域におきましては、外国人留学生をスキーインストラクターとして活用する動きも見られているところでございますが、道といたしましては、今後ともインバウンドの受入に向けた地域の意識醸成を図りますとともに、国や関係団体などと連携しながら、外国人観光客を積極的に受け入れる意欲と能力を持つアウトドアガイドの育成に取り組んでまいります。</p>